

令和3年度 第五小学校 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞ 1 豊かな心の醸成 2 確かな学力の向上 3 健やかな体の育成

	学校経営方針	具体的な内容	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性
						評価	コメント	
1	豊かな心の醸成	「相手を思いやり、共に認め合う子」の育成を目指す。 よさに着目し、互いのよさを認め励ますことを通じて、思いやりの心を醸成する。	A	2回の思いやりの木の取組と、朝会でいじめゼロの取組についての発表を行った。他の学年の取組を聞くことで、友達の良さに気付いたり、自分にできることを考えるきっかけになっていた。	思いやりの木の取組を各学級で価値付けをしたり、実践につながるよう日常的な指導に生かしたりする。いじめゼロについては、上の学年の実践を生かして学級での取組を深化させる。	B	いじめゼロの取組はとても良い取組である。思いやりの木に表される「うれしかったこと」などのポジティブな体験を児童が共有できたことはとても良い。人権教育は学校だけで完結することは困難であり、学校・家庭・地域が一体となって進めていく必要がある。	次年度も全校体制でいじめの早期発見・早期対応を進めるとともに全教育活動を通して人権教育を推進していく。
			A	各学級の実態に合わせて、日々の学級指導の中で道徳教育を進めることができた。	特別の教科 道徳での授業力向上を図るために、小教研道徳部の実践を紹介したり、資料提供をしたりする。	B	道徳性を養うという目標は、評価が他の教科と異なるため、各学級の実態に合わせて日々の指導の中でも道徳教育を進めることができたことは良い。夢や希望を育む大切さを実践して欲しい。	特別の教科 道徳の授業の充実と共に、道徳授業地区公開講座に外部講師を招聘し、引き続き心の教育の充実を進める。
			B	担任、専科、わかすぎ担当の間で情報交換を行い、連携して指導を行うことができた。保護者の理解を得ることが難しい場合もあるが、丁寧な説明を行い、学校と家庭の連携を図る。	保護者とよりよい関係を築くとともに、丁寧に学校での実態や課題を保護者に伝え、適正な就学の実現をめざす。	B	特別な支援とは何か、どうして必要なかを児童だけでなく、保護者にも伝えていくことが必要である。	わかすぎの教員やスクールカウンセラーと協力し、各学級での特別支援教育の理解教育を進める。
2	確かな学力の向上	自ら考え、共に学び合う子」の育成を目指す。 主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、授業改善を図る。	A	デジタル教科書やスライドなど、どの教科の授業でも使うように心掛けた。書くことが苦手な児童が多いので、効果的だったと感じる。	電子黒板の本格的な導入と電子教科書の一部導入に向け、ICTの本格的活用を行っていきながら基礎学力の定着を進める。	B	ICTはその機能・可能性を理解し活用することで高い教育効果を得ていくことはもちろん、教職員の業務効率化・改善につながることも期待する。電子黒板や電子教科書の活用を進めて欲しい。	電子黒板や電子教科書、学習用端末を活用した教育活動を推進する。
			A	2学期は考えを出し合ったり、話し合ったりする時間を多く設定できた。今年度は考えや発表を聞く機会が少なかったため、今後も継続して取り組んでいくことで考える力・表現力の向上を図る。	教室でのソーシャルディスタンスが要求される中、クロームブックのジャムボード等の活用を図り、ICTを活用した考える力や表す力の向上を進める。	B	ジャムボード等、電子ツールを用いたICTのより高度な活用に期待するとともに、ICTの使用による弊害のひとつとされる「書く力の低下」にもより配慮いただけることを期待したい。	引き続き、校内研究や自主研修、教材研究の充実等を通して授業力向上に努める。
			A	貯本通帳の取組と朝会での校長先生から達成者紹介、読書旬間でのおすすめの本紹介や読書ビンゴなどの取組によって読書好きの児童は増えている。貯本通帳が溜まらない児童は、貯本の紙を無くしたり、忘れたりといった、物の管理での課題が大きい。	学校司書や図書ボランティアを活用し、読み聞かせを行い、本への興味・関心を高め読書活動の推進につなげる。図書購入の予算確保に努める。	B	「おすすめの本」紹介はとても良い。読んだ本の内容を把握し、自分が感じたことを書き出すことは文章作成の良い練習になる。保護者、児童のアンケート結果に比べ教職員の評価が低いことを鑑みるなか、本は誰でもが平等に得ることができる唯一の情報源なので、より本への興味を高める指導・工夫をお願いする。	家庭学習強化旬間や読書旬間において読書する時間を位置付けられるように家庭に対して啓発を進める。
3	健やかな体の育成	「体を鍛え、自他の命を大切に育てる子」の育成を目指す。 体力の向上と健康の増進を推進し、自分の命は自分で守ろうとする態度の育成を図る。	B	コロナ禍、委員会、自主練習などが重なり、休み時間に外遊びができる条件が十分だったとは言えない。休み時間を使って行うことができず、継続してできなかった。	中休みや昼休みは、基本的に外で遊ぶことを各学級で指導する。旬間中は、外で活動することを優先させる。	B	近所では外で遊ぶ児童の姿を見かけない。学校での体力づくりを期待する。児童、保護者の評価は教職員評価を上回っている。コロナの状況を考慮しつつ、密を避け工夫をしながら体力向上の取組に期待している。	体力・運動能力向上に向けた日常の体育の授業の充実を図るとともに、休み時間は外で体を動かし、心と体をリフレッシュする。
			B	保健指導の充実を図る。「元気チェックカード」や感染症対策を通じて、健康的な生活習慣づくりを進める。	手洗い・うがいを教室に入る時に必ず行うよう指導する。ゲームやスマホ等の使い方は、児童への指導だけでなく、保護者への啓発を行う。	A	感染症対策は学校としてできることをしっかりやっている。マスク着用、手洗いの徹底の取組が定着している。元気チェックカードの保護者への浸透も良いと見て取れる。家庭を巻き込み継続した取組をお願いする。	「元気チェックカード」は効果的に活用されていた。次年度も継続するとともに、課題に応じた内容に改善していく。
			B	コロナの感染状況に応じた安全指導・避難訓練を実施することができた。校庭までの避難を実施することができたので、避難経路の確認ができた。	状況に応じた避難訓練を継続して行う。命の大切さや命を自分で守ることの重要性を浸透させる。	B	実際の災害発生時には予想もつかない状況となる可能性がある。繰り返しの訓練で避難の基本を身に付けられる様、緊張感をもった取り組みを引き続きお願いする。	今年度できなかった交通安全教室や外への避難訓練などを工夫して実施していく。
4	その他	「学校や地域を愛する子」の育成を図る。 家庭や地域、関係機関との連携を進め、	A	スクリーンやメール配信などを活用して学校の情報や学習の課題などを家庭に知らせることができた。	コロナ禍の中で保護者や地域に教育活動を十分に公開できなかったため、学校HPやスクリーン等を活用して、学習や行事を画像とコメントで伝えていく。	A	デジタルツールによる情報配信は時に一方通行になりがちだが、保護者による評価は高いことから有効に機能しているものと思う。学校ホームページの活用をもっと積極的に行って欲しい。	スクリーンの活用や学校ホームページの更なる改善を通じて、開かれた学校を推進していく。
			B	教職員が、それぞれの専門性を発揮するとともに、一致協力して教育活動に当たることができた。	各担任の専門性を学年で生かす教科担任制の準備期間として試行していく。	A	十分な準備に基づいた試行の結果を相互にフィードバックし共有することで、教科担任制のメリットが最大限得られるように進められることを期待する。	各担任の専門性を学年で生かす教科担任制の準備期間として試行していく。
			A	小中連携の取組は計画したが、コロナの感染拡大により、生徒・児童の交流は実施できなかった。	実施可能な交流を積極的に進めていく。	B	新型コロナ感染拡大懸念のなか、基本対策となる三密回避を優先せざるを得ないが、デジタルツールを活用した交流実施の工夫もあって良い。	来年度も新型コロナ感染拡大の懸念がある場合は、その中でできる交流を進める。